

# 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	住之江区
学校名	大阪市立北粉浜小学校
学校長名	喜多芳星

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立北粉浜小学校では、第6学年 30名

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

本校児童の平均正答率は、国語科、算数科、そして、理科の全ての教科において、大阪市平均、および、全国平均を上回ることができなかった。

学習指導要領の区分・領域別に分析すると、理科のA区分「エネルギー」を柱とする領域の本校児童の平均正答率は、大阪市平均とほぼ同じだった。

本校児童の平均無解答率は、国語科は、大阪市平均とほぼ同じ、算数科、および、理科では、大阪市平均、および、全国平均を大きく下回ることができた。このことから、本校の児童は、最後まで諦めずに、粘り強く課題に取り組んだことがわかる。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

本校児童の平均正答率は、国語科、算数科、そして、理科の全ての教科において、大阪市平均、および、全国平均を上回ることができなかつたので、大阪市平均、および、全国平均を上回る学力を身につけさせることが今後の課題である。

一方、本校児童の平均無解答率は、国語科は、大阪市平均とほぼ同じ、算数科、および、理科では、大阪市平均、および、全国平均を大きく下回ることができた。このことから、本校の児童は、最後まで諦めずに、粘り強く課題に取り組むことができるので、その特性を学習内容の理解や定着に生かす。

質問調査より

「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」という質問で肯定的な回答をした児童の割合が、大阪市平均、および、全国平均より高かった。

「普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか」という質問で、「2時間以上」と回答した児童の割合が、大阪市平均、および、全国平均より高かった。また、「普段1日当たりどれくらいの時間、読書をしていますか」という質問で、「2時間以上」と回答した児童の割合が、大阪市平均、および、全国平均より高かった。このことから、本校の児童は、長時間にわたって勉強や読書をしていることがわかった。

「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」という質問に対して、肯定的な回答をした本校児童の割合が、大阪市平均、および、全国平均より高かった。このことから、本校の児童は、学習したことを実生活に生かしていることがわかった。

## 今後の取組(アクションプラン)

数年前の本校の児童のように、大阪市平均、および、全国平均を上回る学力が身につくよう、「学力向上支援チーム事業」や「ブロック化による学校支援事業」を活用して、校内研修を充実・活性化させ、教員の授業改善に向けて、積極的に取り組みを進める。さらに、他校と同様に、若手教員の急激な増加、全学年単学級化が進んでいるので、「スクールアドバイザー」と連携をして、「メンター研修」など、自主的・自発的な研修を支援・指導して、各教員の課題やニーズに合った研修を充実させる。あわせて、学習者用端末などICTの積極的な活用を図るなどして、教員の働き方改革を重点的に推進し、心身ともに健全・健康な状態で、児童と関わる時間を大幅に増加し、日々の授業準備や教材研究、学力分析、また、児童理解などに取り組み、教員の授業力・指導力を一層向上させて、本校児童の学力向上に取り組む。